

## 薬学部創薬科学科学生が東大阪市ゆかりの古代桃「稲田桃」を使ったジャム作りに参加 地元ボランティアと交流

近畿大学（大阪府東大阪市）薬学総合研究所食品薬学研究室（森川敏生 教授）に所属する薬学部創薬科学科学生が、東大阪市リージョンセンター ももの広場（大阪府東大阪市楠根）で開催された東大阪稲田地区ゆかりの古代桃「稲田桃」を使ったジャム作りに参加、地域の特性を生かしたまちづくり事業の一環として稲田桃を復活させ地域の名産とするために発足した「稲田桃再生栽培プロジェクト」のボランティアメンバーと交流しました。稲田桃はこれまでも、近畿大学農学部（奈良県奈良市）食品栄養学科および近畿大学奈良病院（奈良県生駒市）が共同で取り組んでいる「食事満足度向上プログラム」に供する食材として、令和3年（2021年）から毎年ご提供いただいています。今年度は学生たちとともに作った稲田桃ジャムを用いて新たなスイーツを考案し、小児病棟へ提供する予定です。



### 1. 本件のポイント

- 薬学部創薬科学科学生が地元ボランティア開催の稲田桃ジャム作りに参加
- 薬学総合研究所とアンチエイジングセンターが機能性評価研究を行う稲田桃を使用
- 農学部食品栄養学科学生が稲田桃スイーツを考案、奈良病院小児病棟に提供予定

### 2. 本件の内容

近畿大学薬学総合研究所とアンチエイジングセンターでは、東大阪市稲田地区の古代桃「稲田桃」の機能性評価をすすめています。

今回は、稲田桃を用いたまちおこし活動をおこなっている「稲田桃再生栽培プロジェクト」が開催する稲田桃ジャム作りに薬学部創薬科学科学生が参加、地元のボランティアの方々と交流しました。農学部食品栄養学科および奈良病院では「食事満足度向上プログラム」の一環として、令和3年（2021年）から稲田桃を用いた学生考案のスイーツを小児病棟に提供、毎回好評をいただいています。今回は稲田桃ジャムを用いたスイーツを考案し、奈良病院の小児病棟へ提供する予定です。（下の写真は以前に提供した「稲田桃パイ」）



### 3. 開催概要

日 時：令和5年（2023年）8月6日（日）9：00～15：00

場 所：東大阪市リージョンセンター ももの広場

（大阪府東大阪市楠根一丁目12番12号、JR学研都市線「徳庵駅」下車乗り換え、近鉄バス「近畿車輛前」停留場（布施線）から「鷺島橋」下車すぐ）

参 加 者：「稲田桃再生栽培プロジェクト」ボランティアメンバー（約20人）

薬学総合研究所食品薬学研究室所属 薬学部創薬科学科3年生（2名）

### 4. 稲田桃について

“稲田桃”は古くから東大阪市の稲田地区で盛んに栽培されていた桃であり、日本古来の自生種で、実が小さく先が尖っているのが特徴です。お盆のお供え物として重用されていたものの、江戸時代後期頃から同地区で河内木綿の栽培が盛んとなったため桃の栽培が減少していたところに、明治18年（1885年）の大洪水が起き、大半が枯死しました。その後、平成12年（2000年）頃に市民ボランティアメンバーが「地域の特性を生かしたまちづくりの事業」の一環として、稲田桃を復活させ地域の名産とするために「稲田桃再生栽培プロジェクト」を発足させました。令和5年（2023年）7月1日には、近畿大学薬学部薬用植物園にて開催された第12回 薬用植物園見学会にて、楠根リージョンセンター企画運営委員会の村田俊明氏による講演「モモの花咲くふるさとづくり」を開催し、稲田桃の認知度向上の一助となりました。